

地獄ハイキング

 温泉マイスターガイド・オリジナル!

別府公園～朝見神社往復コース



お願いとご注意 歩くときは危険がつきもの

- 歩いて実感するのは危険がつきもの。特に地熱地帯は高温の場所です。足元には十分注意を。沸騰している場所もあります。
- 歩くときは足元の準備、水の準備、そして体調と心の準備を。
- 別府では、自然であっても持ち主のある場所がほとんどです。見学するときは、きちんとお願いしてください。



地獄ハイキング—別府公園—朝見神社往復コース—



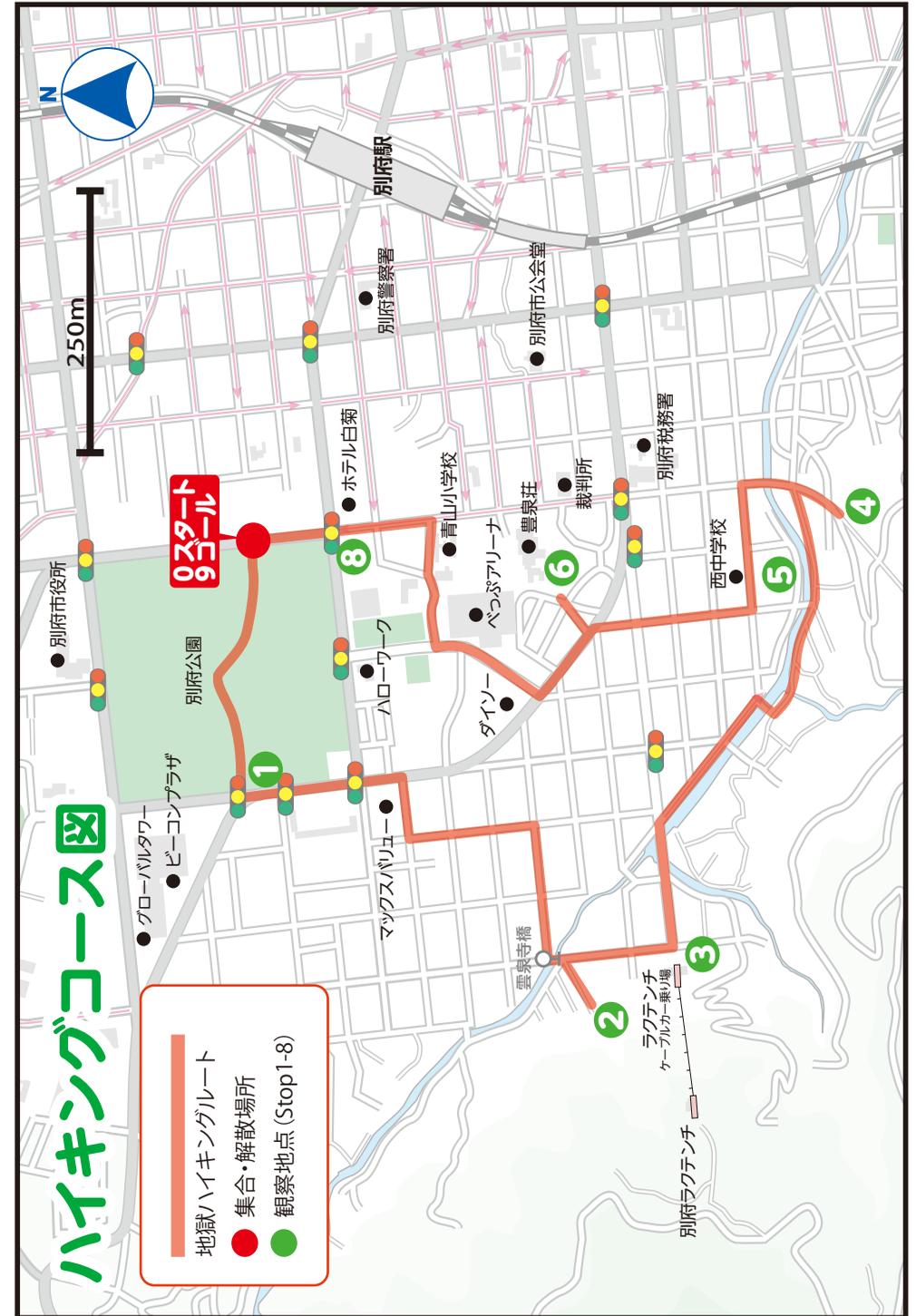
ハイキングの見所と目的



シニアマイスター 若松 君子

別府公園の中を東口から西口に向かいます。西口を出た後は、ラクテンチに向かって歩きます。ラクテンチが存在することも別府の温泉と関係しています。ラクテンチから、乙原川と朝見川の合流地点を過ぎた後、朝見川に沿って歩き、朝見神社に行きます。朝見神社の駐車場付近にて、朝見浄水場や鮎返川を説明します。

その後、西中学校の災害用マンホールトイレ、柳原白蓮の歌碑、野口原五輪塔群、宮地獄神社を見て、別府公園に戻っていきます。



ハイキングコース

- Stop 0 別府公園東口（集合）
- ↓
- Stop 1 別府公園内耐震性貯水槽
- ↓
- Stop 2 乙原地区地滑り防止地区
- ↓
- Stop 3 ラクテンチ
- ↓
- Stop 4 朝見神社と鮎返堰堤
- ↓
- Stop 5 西中学校の災害用マンホールトイレ
（下水道直結式）
- ↓
- Stop 6 柳原白蓮の歌碑
- ↓
- Stop 7 野口原五輪塔群
- ↓
- Stop 8 宮地嶽神社
- ↓
- Stop 9 別府公園東口（解散）

09 別府公園



別府公園(旧別府公園)は、1907(明治40)年10月に完成した。1928(昭和3)年の中外産業博覧会や1937(昭和12)年の別府国際温泉観光大博覧会の会場だった。この当時の別府公園の面積は約3.5haだった。

現在の別府公園は、1977(昭和52)年に整備された。面積は27.3ha。

第2次世界大戦後の1946(昭和21)年から1957(昭和32)年まで、旧別府公園を中心とした地域に米軍基地が置かれていた。この地形が、チッカマウガという米国南北戦争の最後の激戦地に似ていたため、「チッカマウガ・キャンプ」と名付けられたそう。チッカマウガは、大きな石がゴロゴロしていたという。

別府公園の中には、今でも、あちこちに大きな石が見られる。米軍キャンプの敷地は約43haあった。

1 別府公園内耐震性貯水槽



「大地震など災害が起こった場合、停電などによりしばらくの間水道施設の機能が停止し、断水になることが予想されます。そういった場合に備えて別府市では地震に対して十分な強度を持ち、耐久性があり、衛生的にも安全であって、また水道水として必要な水質を確保する貯水槽を市民の避難場所となる公園及び小学校の地下に設置しています。これにより水道施設復旧までの間、市民の飲料水確保が可能となります。

(別府市消防本部HPより)」

設置場所:

別府公園西側入口、松原公園北側噴水横、海門寺公園西側入口、亀川浜田公園西側入口、南石垣公園南側入口、鶴見小学校、実相寺多目的グラウンド

2 乙原地区地滑り防止地区



3 ラクテンチ



ラクテンチのケーブルカーは、昭和4(1929)年に開通し、日本で最も古いケーブルカーの一つである。現在ラクテンチがある山は、鳥取県出身で、金山や炭鉱など鉱山事業を手がけていた木村久太郎が、金山として開発した。明治36(1903)年のことである。その後、温泉の噴気のために採掘を続けることができず、大正5(1916)年に操業を中止。木村鉱山の採鉱技師であった山崎権市が、ケーブルカー敷設と遊園地建設を思いつき、木村等の出資によって、その計画は実行された。

現在、流川通りは、ラクテンチから海までまっすぐに続いている。これは、ラクテンチに客を導くために、流川通り12丁目でカーブしていた地点からケーブルカーの駅までの新道を、木村鉱山が造ったからだ。

4 朝見神社と鮎返堰堤

朝見神社の裏手(南西側)には、別府市の上水道の約75%をまかなっている朝見浄水場がある。この地に浄水場が初めて造られたのは古く、大正6(1917)年のことだ。当時は、乙原川と鮎返川から取水していた。昭和23(1948)年、この鮎返川上流に堰堤を設け、アメリカ駐留軍専用の浄水場が建設された。

「1196年の創建といわれる朝見神社は、当初は乙原にあったが、1348年の鶴見山噴火の際に社地等が崩壊したため、現在の地に移転した。その後、1596年の慶長豊後地震により、本殿等多くが壊滅したが、1670年に社殿が再興された。また、戦後、旧別府公園(現在の青山幼稚園付近)にあった「温泉神社」が合祀された。」

(朝見神社の項は、当神社のHPから)



5 西中学校の災害用マンホールトイレ (下水道直結式)



その他、別府市内の小中学校に合計で31基設けられている。(2020年11月現在)

6 柳原白蓮の歌碑

赤銅御殿跡の小さな公園に、「和田津海の 沖に火燃ゆる 火の国に 我あり誰そや 思はれ人は」と詠んだ白蓮の歌碑が建っている。元々は、ホテル赤銅御殿(旧伊藤伝右衛門邸)の庭内に、昭和29(1954)年に建立されたものとのことだ。別府温泉地球博物館の三浦祥子さんの「お話の佃煮」によると、旧伊藤伝右衛門邸の、白蓮も浸かったはずの風呂場の広さは13坪で、温泉の泉質は「弱アルカリ性で炭酸水素塩泉系」であるとのこと。



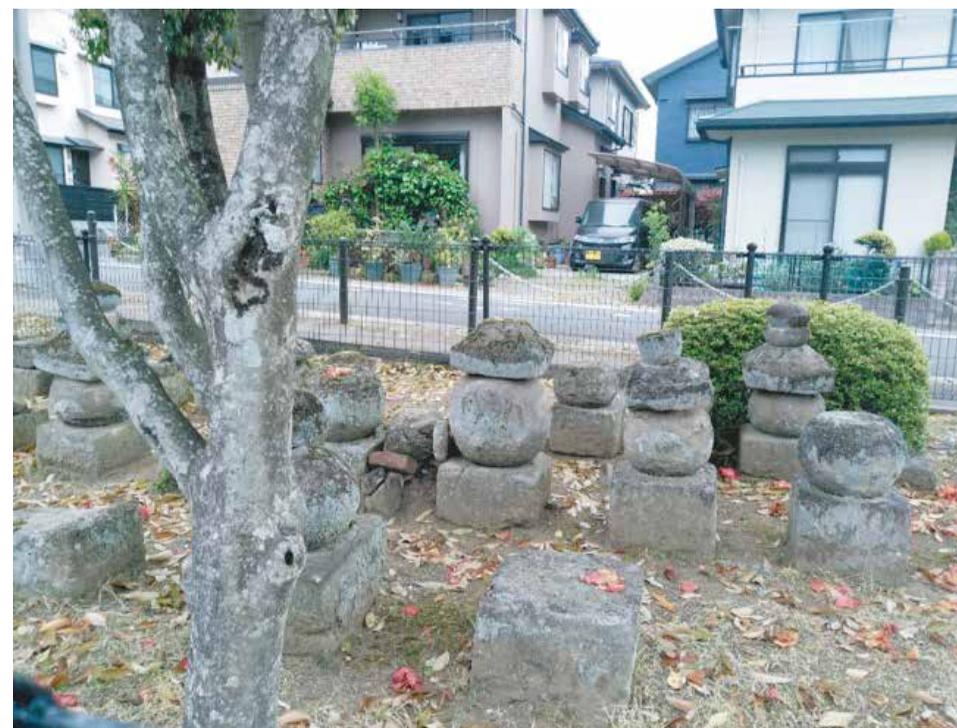
4 野口原五輪塔群

「昭和56(1981)年1月、野口原3の18の1で発見され、同年9月に現在地に移転復元された。塔包含層は、東西2.50メートル、南北7.20メートルにわたり、その中から24基の五輪塔と1基の宝塔が確認された。

塔は南東方向に向かって倒れ、埋没しており、西方山岳部から流れ出した土石流によるものであることがあきらかである。土石流の厚さは約1.20メートルで、塔造立当時の黒色火山灰層の上に五層にわたって堆積していたことから、この塔は少なくとも5回におよぶ大水害で埋没したものと考えられる。

鎌倉時代から室町時代にかけて(600~700年前)の五輪塔であり、その中の一基から火葬の人骨が発見された。」

(別府市教育委員会の説明板から)



8 宮地嶽神社

現在は確認できないが、京都大学地球物理学研究所(現地球熱学研究施設)により、この地点の井戸における1925年から枯渇した1967年までの水位や温度の変化が紹介されている(由佐ほか、2002)。

井戸は深さ8.5m、径70cmの浅井戸であった。1925年の水温は43.2℃と高温で、最終的に30℃以下に低下した。



お疲れ様でした!!

別府温泉地球博物館フィールド博物館

これまで行われました地獄ハイキングのツアーパンフレットは、別府温泉地球博物館にすべて収蔵されております。さらに、新しいコンテンツも展開中です。是非、ご覧下さい!!

URLは、<http://beppumuseum.jp/field.html>です。

 フィールド博物館



▶ 2時間~半日コース
地獄ハイキング
京都大学地球熱学研究施設提供

▶ 1日コース
別府の地獄と地熱地帯コース
地下からエネルギーの不思議コース



ガイド：若松君子 (シニアマイスター)
編集：竹村恵二 (別府温泉地球博物館)
下岡順直 (立正大学)
杉本久美 (株式会社電子印刷センター)

別府温泉地球博物館・温泉マイスター協会
〒874-0011 大分県別府市大字内竈1393番地
e-mail: info@beppumuseum.jp Fax: 0977-66-5383